



五馬力三相交流誘導式電動機

搗鑄機二〇〇ボンド五本立杵

引水管

タンゼンシャリインバルスター・ビン水車

五六キロヴオルトアンペア三相交流發電機

將來ハ陽坑地並以下四百尺ノ地點ヲ小租坑溪流即チ基隆川水準ヨリ百尺上位ヨリ大切坑(延長三、六〇〇尺)ヲ開鑿シ

進ンテ斜坑三百九十尺掘進シ陽坑南第十九號ト連結シ以テ探鑄ヲ施行スヘク前年來計劃アリシカ今又搗鑄製鍊所ノ動

力ハ從來臺灣電力株式會社ヨリ供給ヲ受ケフ、アルモ將來ハ水力ニヨル自家用發電所ヨリ配給スヘク目下規劃準備中

ナリ

## 二、事業成績其他

當年ハ下半期ニ入り富富帶ニ逢着シ操業盛シテ甚タシク增産セリ、生産高及販賣高ヲ示セハ左ノ如シ

鑄種	生産高	販賣高	販賣價額
金	六五、五〇七・四九九	六五、五〇七・四九九	三三三、七八二・八七六
銀	二二、八五七・三九〇	二二、八五七・三九〇	三、一八三・四四〇
計			三三六、九六六・三一六

鑄夫ハ上半年中ハ鑄況不良ナリシ爲メ炭礦其他ノ方面ニ轉業セル者多カリシモ十月上旬富富帶ニ逢着活況ヲ呈シタル  
爲メ轉業先ヨリ漸次歸山シタリ、而シテ年末現在ハ四百九十八人ニシテ貨銀ハ男最高一圓三十錢、最低六十五錢、女

ハ五十錢乃至三十錢ナリ

三、其他 春秋二回及ヒ臨時ニ清潔法ヲ施行セシムルニヨリ傳染病、風土病等無シ、又勞働者ニハ郵便貯金或ハ信用組合等ヲ利用セシメ福利増進ヲ計リツワアリ、娛樂ハ時々臺灣芝居、活動寫眞等ヲ公開シ、修養機關トシテ同風會ノ設立アリ、時々講演會ヲ催シ教化ニ努力シツワアリテ思想上何等憂フヘキヲ認メス

金瓜石鑄山 位置臺北州基隆郡瑞芳庄外一庄地内  
鑄業人金瓜石鑄山株式會社一、設備 當年中新設シタルモノ左ノ如シ  
第三長仁坑ヨリ第四長仁坑迄運搬臺車軌道布設並ニ第四長仁坑ト第五坑間輕便鐵索ヲ架設セリ第三長仁坑鑄床ハ往年其ノ一部分ヲ稼業シタルモ大正七年未都合ニヨリ中止シ大正十三年以來探鑄中ノ處本年五月品位優良ナル鑄體ヲ發見シ逐日增產シツワアリ加之新ニ探鑄セル第四長仁坑亦新鑄床ヲ發見シ此ノ方面ノ前途頗ル有望視セラルニ依リ其ノ搬出能力增加ノ目的ヲ以テ本選鑄場ノ設備完了ハ最モ急務ナリトシテ之カ完成ヲ期シツワアリ

## 二、將來ノ計劃

部分的設備ノ改廢計劃ハ必要ニ應シ其都度之ヲ行フト雖將來主要ナル計畫トシテハ浮游選鑄設備ノ完成ニアリ新ニ發見シツワアル品質優良鑄床ニハ其必要ヲ認メサルモ往時ヨリ引續キ探掘シツワアル鑄床中ニハ本選鑄場ノ完成ニヨリ經濟的ニ稼業シ得ル鑄量多量アルヲ確ノ得タルト現在ノ選鑄尾中ヨリ又ハ精鑄中ヨリ浮游選鑄ニテ再選鑄スルヲ有利トスルモノアルヲ以テ本選鑄場ノ設備完了ハ最モ急務ナリトシテ之カ完成ヲ期シツワアリ

## 三、年末現在設備ノ概要

## 採鑄

イ、本山採礦場 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル鐵業

一、可搬蒸氣捲揚機

一、デリッククレン(電動)

一、電動機鑿岩機

ロ、五坑採礦場

一、玉村式索道

一、空氣壓搾機

一、捲揚機

一、壓縮空氣溜

一、鑿岩機

一、長仁坑採礦場

一、空氣壓搾機

一、空氣溜

一、鑿岩機

一、高田式試錐機

一、主要坑道及軌道延長

本山四坑以上 三一〇三九尺

本山五坑以下 二四二八七尺

長仁坑方面

二五七四五尺

最大半徑一六尺(三噸)  
柱高三六呎腕長三一(三噸)  
直徑三尺高八尺  
十時×十時 インガーソール式  
最深度五五〇尺

式二、高田式ストバ  
二、足尾式二十番型 一、足尾式十一番型  
三、同式十一番型 三  
一、ジャツクハンマー

インガーソール十八番型

一、足尾式二十番型 二、足尾式十一番型  
三、同式十一番型 三

一、龜鉗通道 一八〇〇尺

一、竹 鉗 三一一〇尺

附錄 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル鐵業

一、複式ドア一分級機

一、三角型ダイスター・シーフクナード

一、煉瓦製ドア・シーフクナード

一、搗鑛機

一、砂鑛沈降池

一、木製母液槽

一、溶解槽 鐵製

一、金液槽 煉瓦製

一、金液過槽 木製

一、貯液槽 煉瓦製

一、亞鉛箱 同

一、ウオシントンボンブ

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、硫酸燒槽 同

一、泥鑛沈降池 煉瓦製

一、調濾槽 鐵筋コンクリート製

一、中間槽 鐵筋

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、硫酸燒槽 同

一、泥鑛沈降池 煉瓦製

一、調濾槽 鐵筋コンクリート製

一、中間槽 鐵筋

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、硫酸燒槽 同

一、泥鑛沈降池 煉瓦製

一、調濾槽 鐵筋コンクリート製

一、中間槽 鐵筋

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、硫酸燒槽 同

一、泥鑛沈降池 煉瓦製

一、調濾槽 鐵筋コンクリート製

一、中間槽 鐵筋

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、硫酸燒槽 同

一、泥鑛沈降池 煉瓦製

一、調濾槽 鐵筋コンクリート製

一、中間槽 鐵筋

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、硫酸燒槽 同

一、泥鑛沈降池 煉瓦製

一、調濾槽 鐵筋コンクリート製

一、中間槽 鐵筋

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、硫酸燒槽 同

一、泥鑛沈降池 煉瓦製

一、調濾槽 鐵筋コンクリート製

一、中間槽 鐵筋

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、硫酸燒槽 同

一、泥鑛沈降池 煉瓦製

一、調濾槽 鐵筋コンクリート製

一、中間槽 鐵筋

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、硫酸燒槽 同

一、泥鑛沈降池 煉瓦製

一、調濾槽 鐵筋コンクリート製

一、中間槽 鐵筋

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、硫酸燒槽 同

一、泥鑛沈降池 煉瓦製

一、調濾槽 鐵筋コンクリート製

一、中間槽 鐵筋

一、亞鉛洗滌槽 木製

一、灰吹爐	英式	一座
一、旋盤	同 一六呂	一臺 米式 八呂
一、ドリリングマシン	米式直徑 二〇呂	一臺 英式最大半徑四十吋
一、シエビングマシン	同 同	一臺 スワローエク十四吋
一、スクリュイングマシン	一時半迄	一臺
一、扇風機	排氣口徑七呂	一臺
一、空氣壓搾機	壁型五時、五時	一臺
一、脫硫槽	鐵製 徑二尺八寸高七尺	一臺
チ、運搬ニ屬スルモノ	八時	二臺
本設備ハ前年ト同様ニシテ左ノ如シ		一臺

運搬系統中須要ナル幹線ハ金瓜石中央停車場ヨリ煥子寮灣ニ至ル空中索道ニシテ更ニ中央停車場ニ於テ接續シ長仁停車場及燐鑛停車場ニ至ル空中索道ノ一支線アリ何レモ「ブライヘルト複線式」ニシテ全長一萬七千二百尺ヲ有ス此外五坑選礦場ヨリ中央停車場ニ至ル玉村式索道延長一、三五〇尺及ビ本山採礦場ヨリ中央停車場ニ至ル自動索道二、八〇〇尺ヲ有ス

煥子寮灣ニハ鐵石積込棧橋木製及鐵製ノ兩者ヲ有シ一日約八百噸積出ノ能力ヲ有ス

右ノ外附帶事業トシテ臺北州下宜蘭方面ニ植林事業ヲ有ス即チ宜蘭郡礁溪庄字得子口ニ杉、樟混植造林地面積七十九甲

餘アリ尙ホ同州下蘇澳ニ百餘甲ノ相思樹造林ヲ計劃シ其ノ手續中ナリ  
當年中作業ノ狀況變化ヲ來セルモノナク、將來ハ勞力ニ代フルニ機械力ヲ經濟的ニ應用スルコト鐵區内探鐵ニ全力ヲ傾注ス可キ豫定ナリ

#### 四、事業成績

鐵種	產高	價額	平均單價
金	五三、四一二	二七七、〇二四	五・一八七
銀	一三〇、六七三	〇・一三〇	一七、〇五一
金銅鑛	一八、三六七、六二六	百貫ニ付 六・九一三	一一六九、七八六
沈澱銅	一四八、一二一	一・一一三	一六四、八三八
砂金	五五七、六	一、七二八、六九九	一、九七八
計			

金銅鑛及沈澱銅ハ大分縣佐賀關久原製鍊所へ賣鐵シ金、銀塊ハ臺北ニテ販賣セリ  
相場ハ前年ニ比シ金二分、銀八分、銅八分方低下シタリ  
尙ホ當山ノ支山ニ屬スル砂金鑛區ニ於ケル產金左ノ如シ

#### 五、鑄夫

各工場ヲ通シテ本島人臨時苦力約三百名ヲ増加シ内地人及ヒ本島人常備夫ニ於テハ約四十名ノ減少ヲ見タリ年末ノ現在人員並ニ賃銀ハ左ノ如シ

種族別	人員		最高賃銀 四円	最低賃銀 ○・七〇〇
	男	女		
本島人	男常備夫 一・八〇九	五七	○・九五〇	○・六〇〇
北港口炭礦	男苦力 北港正街北港口地内	二・八〇〇	○・八〇〇	○・三〇〇
漁業人	後宮合名會			

### 一、設備

當年中新設、變更セルモノ及ヒ將來ノ計劃並ニ年末現在設備ノ概要

新設	汽罐	徑七呎	呎	長二十二尺	ランカツシャ一式	二基
同		徑六呎	呎	長二十九尺	同	一基
捲揚機		十四吋	時	兩汽角橫置式	同	一基
撒廢	同	十二吋	時	同	一基	一基
汽罐		徑四呎五吋	時	長十一尺	一基	一基

### 二、年末現在設備ノ概要

軌道	五堵驛前貯炭場ヨリ山元迄專用輕鐵複線二哩、分歧單線一哩ヲ有ス
捲揚機	双汽角橫置式 十四吋……一基
汽罐	徑七尺長二十二尺ランカツシャ一式：二基
同	徑六尺長三十尺：一基
コールニツシユ式	徑五尺長二十四尺：二基
エバンス	徑五尺長二十三尺：一基
ウォーシントン	徑五尺長二十二尺：一基
唧筒	十吋……四臺
同	十二吋……三臺
同	十吋……一臺
同	スペシャ
同	十四吋……三基
鐵管	八吋……一基
鐵管	十吋……一基
鐵管	六吋……一基
鐵管	一吋乃至五吋
軌條	十二封度 坑內 一二・〇三〇尺
軌條	坑外 四〇、九九五尺

ハ、將來ノ計劃 昭和三年中汽罐徑六尺長二十八尺ヲ一基増設シ五尺汽罐二基ヲ撤廢ノ見込ナリ

### 二、作業

第四坑ヲ鄉長厝ニ開設シ坑道掘進中ニシテ昭和三年四月完成ノ豫定ナリ、第一坑ハ左右第八片磬ヲ新設シ第二坑ハ左右第七片磬ヲ新設シ何レモ現在掘進中ナリ、第三坑ハ左右第三片磬ヲ採炭中ナリ

### 三、成績

當年ノ產高ハ上層炭九二・六三一、五二五斤、四七九、〇八〇圓、下層炭一七、九九六、二八八斤、一二〇、二一八圓ニシテ上層炭ハ三井物產臺北支店ニ、下層炭ハ臺灣製紙株式會社、臺灣煉瓦株式會社、高砂麥酒株式會社、嘉南大圳組

## 合並ニ地方販賣ヲナス

四、鐵夫 年末現在ハ七百三十五人、最高賃銀二圓二十錢、最低九十錢ナリ、概々附近通勤者ニシテ異動少シ

五、其他 福利増進ニ關シテハ毎年末勤績賞與ヲ支給シ娛樂慰安ノ爲メニハ年々部落ニ於テ行ハルル二、三ノ祭禮ニハ相當寄附ヲナシ芝居等ヲナサシム

海山炭礦 位置：臺北州海山郡蕃地及新竹州大溪郡蕃地  
營業人：海山炭礦株式會社

一、設備 當年中新設シタルモノ左ノ如シ

礦區所在地ノ金瓜坑ヨリ海山郡三峡庄五閭間一哩六十六鎖ニ新運炭線路ヲ敷設シ六噸四輪聯結「サイドタンク」型蒸氣機關車ノ運轉ヲ開始セリ

## 年末設備ノ概要

一、捲揚機 汽笛直徑十二吋 橫置複笛式……二基

一、汽罐 直徑六呎四吋 長二十九呎三吋……二基

一、唧筒 スペシヤル式十二吋……二臺 十吋……三臺 八吋……二臺

一、蒸氣機關車 重量 六噸……二臺

一、體炭窯 直徑 七呎……二六基

將來ノ計劃 憄炭製造用窯四十個新設ノ計劃アリ、又第二斜坑開鑿ノ計劃ニテ汽罐六呎×三十呎一基、汽機十二吋一基、ポンプ八呎一基ヲ新設セントス

二、作業 第一坑ハ斜坑左右四片磐ヲ主トシテ採炭中ニシテ左二片ハ採炭ヲ終了セリ、第二坑ハ一片坑道ヲ中止シ其ノ以下炭層傾斜距離六十尺ノ點ヨリ新ニ坑道ヲ掘進採炭ス現在延長六百五十尺トス

三、成績 當年中ノ販賣高左ノ如シ

炭種	販賣高	代價
塊炭	一、五六五噸	一八、〇九三圓
切込炭	三、七一三噸	三一、二八五圓
粉炭	一一、二六七噸	七七、六四七圓
計	一六、五四五噸	一二七、〇二五圓

右ノ外コータス販賣高一、六〇五噸、價額二三、五八三圓アリ、石炭ノ供給先ハ島内製糖會社其他對岸方面ナルモ當年ハ支那ヘノ輸出不振ニシテ炭況稍々振ハス

此外鐵夫ハ年末現在三百五名、賃銀ハ男最高二圓二十錢、最低五十錢、女最高八十錢、最低二十五錢ナリ、而シテ大部分ハ土着ノ者ナルヲ以テ異動少シ

松山三坑四分坑 位置：臺北州七星郡松山庄地內  
營業人：臺灣炭礦株式會社

一、設備 當年中新設並ニ變更シタルモノ無シ、將來ノ計劃トシテハ現在設置ノ捲揚機（汽笛十吋）ヲ十二吋乃至十四吋ニ取替ヘ同時ニ現在休業中ノ松山第二坑ニ設置シアル汽罐（コルニツシユ型二十四馬力一基）ヲ移轉使用スル方針ナリ

二、作業 第三坑及新坑ハ共ニ炭層ニ著シキ變化ナキヲ以テ進ンデ卸ヲ延長シ一日百五十噸以上ヲ掘採スル豫定ナリ

三、產額其他 當年ノ出炭ハ二五、七八四噸、販賣高二四、九六二噸、其代價一三二、三一一圓ナリ、主トシテ島内製糖會社、煉瓦會社及ヒ基隆方面へ販賣シタリ

鑄夫ハ殆ント炭坑附近ノ農民ニシテ移動少シ只舊曆年末及ヒ農繁期ニ於テハ勞力難ヲ感ス、年末現在人員ハ二百八名 貨銀ハ最高二圓三十錢最低八十錢ナリ

山本炭礦 位置 山本義信  
營業人 臺北州海山郡士城庄地内

一、設備 前年各坑全體ノ排氣坑トシテ開挖シタル風坑カ著炭シタルヲ以テ第六坑ト名ケテ採炭ヲナシツアリ運炭方法ハ坑口ヨリ山腹九百四十尺ノ地點迄軌道ニヨリ傾斜面五百尺ノ間ニハ自動「インクライン」ヲ設ケ五坑内車道ニ連絡ヲ取リテ二坑ニ出テ山元貯炭場ニ集積ス

二、產高 三萬五千五百噸ニシテ前年來三井物産ニ一手販賣セル爲メ至極順調ニ炭捌キシ、交通局鐵道部、製糖會社等島内消費ニ充テラル而シテ販賣高ハ三萬五千百五十噸、代價二十九萬六百八十六圓ナリ

三、鑄夫 年末現在人員五百十八人ニシテ年中異動少シ、其ノ内譯及貨金左ノ如シ

	採炭夫	坑内運搬夫	坑外運搬夫	支柱夫	選炭夫	其 他	計
人員	二三四人	八三人	六五人	九人	三九人	九八人	五一八人
最高貨銀	三・五〇〇	一・八〇〇	一・九〇〇	二・〇〇〇	〇・三五〇	三・五〇〇	
最低貨銀	〇・八〇〇	〇・七〇〇	〇・六〇〇	〇・九〇〇	〇・二五〇	〇・四五〇	
平均	一・六三〇	一・一八〇	一・一三〇	一・四七〇	〇・二七〇	〇・九八〇	
基隆炭礦 位置 基隆炭礦株式會社							

茲ニ基隆炭礦トシテ記載スルモノハ基隆炭礦株式會社所有ノ基隆ヲ中心トスル主要炭坑ノ合稱トス尙ホ此ノ外臺陽礦業株式會社ノ石底坑、臺灣炭礦株式會社ノ崁脚坑、瑪鍊坑モ礦業代理人タルノ故ヲ以テ之ヲ附記スヘシ

#### 一、當年中新規ノ設備

	新設坑名	種類	臺數	運轉開始
一、坑口開鑿	鑽第八〇一號	鑽區四脚亭十七坑	坑口	瑞芳庄鑽魚坑
			開坑	七月
同第八〇〇號	同	同九坑第一斜坑	同	同
一、四〇六	同	同	猴硐	十一月
同第八〇〇號	同	同第二斜坑	同	同
三、電氣捲揚機			同	十一月
八〇〇	四脚亭九坑第一斜坑	コルニツシュ	一	十一月
八〇一	同	同	一	六月
四、電氣唧筒	四脚亭五坑	七・五HP タービン	一	十二月
八〇一	同	同	一	十一月
一、三三七	同	同	一	五月
	同	同	一	十二月
	同	同	一	十二月
	同	同	一	八七

附錄 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル鐵業

八〇〇

四脚亭九坑第一斜坑

五 HP

スリースロー

八二一

田寮港十六坑

四 HP

タービン

八〇一

同 十七坑

二〇 HP

タービン

五二二

同 十九坑

二〇 HP

タービン

八八

同 一坑

五 HP

タービン

八八、八四六

同 三坑

二〇 HP

タービン

五、蒸氣唧筒

四脚亭十四坑

四 HP

タービン

二、五三九

炭脚第三斜坑

エパンス

十時

タービン

一、四〇六

同 十二時

二〇 HP

タービン

九二六

石底一坑

同

十二時

タービン

一、二三七

同 五坑

同

十時

タービン

六、ガソリン機關車

一、二三七

石底六坑

同

八時

タービン

七、扇風機

四脚亭十二坑

フラワー式 三、〇〇〇立方呎

一

タービン

四二四

同 七坑

三、〇〇〇立方呎

一

タービン

一、三三七

同 十九坑

シロツコ式 五、〇〇〇立方呎

一

タービン

五一二

右ノ外設備ヲ變更シタルモノハ

一、四脚亭上一坑採掘ハ水準以上ノミトナリタル爲メ排水設備ヲ全部撤去セリ  
二、四脚亭八分坑ハ廢坑ニ付設備全部ヲ撤去セリ  
三、四脚亭八坑ハ上部ノミノ採掘トナリタルニ付在來ノ排水設備ヲ全部撤去シ舊第一ポンプ座上ニ新ニポンプ座ヲ設ケ二十馬力タービンボンブ二臺ヲ据付ケ排水スルコトセリ  
四、四脚亭十九坑ハ（元東和炭坑）蒸氣排水設備ノ全部ヲ電氣排水設備ニ變更セリ

五、田寮港一、三坑ハ水頭六百呎ターピンポンプヲ新設シ在來ノポンプ座二段排水個所ヲ一段排水ニ變更セリ

將來ノ計劃

一、四脚亭一坑及田寮港三坑ニ硬石捲揚機ヲ各一臺宛坑外ニ設置シ昭和三年一月及二月ヨリ運轉スル豫定ナリ

二、四脚亭九坑第二斜坑々外ニ三十五馬力、電氣捲揚機ヲ設置シ昭和三年二月ヨリ運轉ノ豫定ナリ

三、四脚亭十七坑ニ五十馬力三百立方呎空氣壓搾機一臺ヲ設置シ昭和三年二月足尾式鑿岩機ヲ使用ノ豫定ナリ

四、石底二坑ヲ開坑シ直徑五呎コルニツシユ汽罐二基十四吋蒸汽捲揚機一臺ヲ設置シ昭和三年四月ヨリ運轉ノ豫定ナリ

二、作業 當年中作業ノ狀況、變更シタルモ及將來ノ方針

一、四脚亭一坑 本鉄延長五百十五間ニ達シ右又鉄ノ延長百五十五間ニ達セリ、左十二片口ヨリ百三十間ノ個所ヨリ自轉坑道ヲ設ケ同所肩部ヲ採掘ス、片磐坑道トシテハ本鉄左部ニ二條、右部ニ二條及右又鉄部ニ五條ヲ有シ坑況依然良好ニシテ年產五萬二千三百餘噸ニ上ル

二、同 上一坑 本層炭ハ殆ンド掘盡セラレ主トシテ中層炭ノ採掘ヲナシ坑況振ハス年產一萬十四噸ニ過キス

三、同 三坑 主トシテ水準以上ノ殘存炭ニ對シテ水平掘ヲ行フ殘存炭量豫想外ニ豐富ニシテ年產一萬四百三十二噸ニ達ス

四、同 三坑分坑 本鉄延長百八十間ニ達シ左右八條ノ片磐ヲ有シ坑況概シテ順調ニシテ年產一萬六千八百二十六噸ナリ

五、同 四坑分坑 本鉄ヲ岩磐中ニ撰ヒ延長百八間ニ達ス、二條ノ「クロスカット」ニヨリテ著炭セシメ左右各々二ナリ

條ノ片磐ヲ有スルモ坑況不振ノ爲メ十二月初メニ坑口ヨリ八十六間ノ箇所ヨリ左又鉄ヲ開設シ坑況挽回ニ力メツツアリ年產四千七百十噸ニ過キス

六、同 五坑 本鉄延長四百五十五間ニ及ヒ坑口ヨリ百八十間ノ個所ヨリ右又鉄三百二十間ヲ掘進ス、片磐坑道ハ本鉄部ニ三條、右又鉄ニ七條ノ外尙ホ四脚亭六坑採掘區域ノ延長ニ五條ノ片磐ヲ有シ坑況依然順調ニシテ年產四萬七千九百五十六噸ナリ

七、同 六坑 本鉄延長五百五十間ニ達シ片磐六條ヲ有ス坑況順調ニシテ年產三萬八百五十一噸ナリ

八、同 七坑 坑口ヨリ二十五間ノ個所ヨリ開設セル右又鉄ハ延長二百五間ニ達シ之ニ三條ノ片磐ヲ設ケ殘炭柱及斷層多キ新床ヲ稼行中ナリ、年產一萬四千二百四十七噸ナリ

九、同 八坑 本鉄延長三百十五間ニ達シタルモ數度ノ水害ノ爲メ作業困難ニ陥リ退却ヲ開始シ殘炭柱採掘中ニシテ年產七千三百九十七噸ナリ

一〇、同、八坑分坑 引續キ退却シ殘炭柱稼行中ナリシモ二月十五日ヲ以テ採掘終了セリ、產炭三千五百六十五噸ニ過キス

一一、同九、十坑 水平部ノ奥ニ二條ノ自轉坑道ヲ設ケ之ヨリ左右ニ附セル十三條ノ片磐ニヨリテ採掘スルノ外斷層先ニ三個ノ坑内斜坑ヲ設ケ稼行ス

九坑々内斜坑ハ一時斷層ノ爲メ進展思ハシカラサリシモ最近炭座ニ會シテ稍々賑フニ至リ、三條ノ片磐ヲ有ス十坑々内第一斜坑ハ本鉄延長二百九十間ニ及ヒ左部ニ四條、右部ニ七條ノ片磐ヲ有スルモ左部片磐延先附近ハ斷層ニ遮キラレ且ツ挿石膨大シテ採掘稍々難澁ノ色アリ、十坑々内第二斜坑ハ鉄口ヨリ十五間ノ個所ヨリ鉄セル右又鉄ノ延

長百八十間ニ達シ同時ニ同第一斜坑採炭區域ト貫通シ通氣良好トナレリ、左部ハ斷層ニ近クシテ發展ヲ阻止サレ右部ニ六條ノ片磐ヲ有ス產炭量稍々低下セルモ依然坑況順調ニシテ年產十五萬七千六百七十三噸ヲ算ス

一二、同九坑分坑及同十坑分坑 露頭附近ノ水準以上ニ於テ本層炭ノ殘炭柱ヲ探掘シ更ニ下層、最下層ノ探掘ヲ試ム、坑況良好ニシテ年產二萬一千三百四噸ニ上レリ尙ホ將來水準以下探掘ノ目的ニテ第一斜坑（下層）第二斜坑（最下層）ノ開鑿中ナリ

一三、同十二坑 本鉗延長四百十間ニ達セシモ喰ベ部ニ遭遇シ坑況振ハス右部ニ二條ノ片磐ヲ有スルニ過キサルヲ以テ之カ挽回策トシテ左方更深部探掘ノ目的ヲ以テ坑口ヨリ百二十五間ノ個所ヨリ左又鉗ヲ開設シ目下鋒意掘進中ナリ、年產一萬四千三十八噸トス

一四、同十三坑 本鉗詰ニ於ケル斷層ノ爲メ進展ヲ阻碍サレ左部ニ二條ノ片磐ヲ有スルニ過キス、依リテ該斷層先ヲ探ラントシテ目下探掘坑道掘進中ナリ年產一萬三千五百七十二噸ニ過キス

一五、同十四坑 本鉗延長二百二十四間ニ達シタルモ鉗詰附近ニ頻發スル斷層ノ爲メ展開ヲ妨ケラレ坑況不振ナルヲ以テ坑口ヨリ百六十間ノ個所ヨリ右方ヘ逆又鉗ヲ開設シ延長四十五間ニ及フ年產五千二百九十五噸ニ過キス

一六、同十五坑 本鉗延長三百間ニ達シ片磐ハ左部ニ九條右部ニ二條ヲ數ヘ坑況概シテ順調ナルモ本鉗延先ニハ豫想断層ノ接近シ來ル模様アリ樂觀ヲ容サル狀態ナリ年產四萬二千六百七十七噸ニ及フ

一七、同十五分坑 猿橋驛前基隆河左岸ニ於テ本層ノ露頭部殘炭及下層最下層ノ新床探掘ノ目的ヲ以テ大小十條ノ水平坑ヲ穿チ本年一月以降出炭激増ノ勢ヲ示セリ、年產一萬四五百七十八噸ナリ

一八、同十六坑 大正十五年二月著炭以來本鉗延長二百二十三間ニ達シタルモ上下兩岩磐頗ル軟弱ナル爲メ坑況不

振ナリシモ本年四月ニ坑口ヨリ二百二十間ノ個所ヨリ又鉗ノ開鑿ヲ始メ延長三十二間ニ及ヒ、又鉗部ニ二條ノ片磐ヲ有スルニ至リ岩磐狀況稍々整調ヲ呈シ漸次坑況好轉ノ徵見ユルニ至レリ、年產一萬一千三百八十二噸トス

一九、同十七坑 深澳方面ノ炭層開發ノ目的ヲ以テ宜蘭線瑞芳驛ノ西南基隆河ノ右岸ニ於テ本年七月開坑ニ著手シ目下鋒意岩盤中ニシテ延長三十五間ナリ

二〇、同十八坑 基隆郡七堵庄瑪陵坑字石厝坑地内ニ於テ大正十年中廢坑トナリ居タル石厝坑ヲ復活セシメ四脚亭十八坑ト命名シ同坑深更部ヲ開發セント目下計劃中ナリ

二一、同十九坑 本年八月東和炭坑ヲ引續キ四脚亭十九坑ト改名シ直營作業ヲ開始ス、本鉗ハ斷層ノ爲メ一時掘進ヲ延キラレタルモ目下鉗詰ニ於テ該斷層突破中ナリ、右部四條ノ片磐ニ存スル殘炭拂ヲ行ヒ坑況概シテ順調ニシテ年產三萬一千六百八十四噸ニ達ス

二二、田寮港一坑 本鉗坑口ヨリ七十五間及百七十間ノ個所ヨリ夫々左及右又鉗ヲ掘鑿シソノ延長左部ハ三百六十六間右部ハ四百三間ニ達ス、而シテ左又鉗ハ鉗口ヨリ二百十間ノ個所ヨリ更ニ右又鉗ヲ設ケ延長二百二十間ニ及フ、片磐二十條ヲ有シ坑況依然旺盛ニシテ年產七萬五千二十三噸ヲ示セリ

二三、同三坑 本鉗延長六百二十間ニ達シ左部ニ六條右部ニ三條ノ片磐ヲ有ス、從來炭層變動甚シカリシモ深更部ハ稍々坑況好轉ノ徵アリ、年產三萬三千三百三十六噸ナリ

二四、大竿林二坑 本鉗延長二百四十二間ニシテ左部ニ三條右部ニ二條ノ片磐ヲ有ス、上層及中層ヲ稼行シ居ルモ出水量多々坑況良好ナラス、年產六千六百三十二噸ニ過キス

二五、烘內坑 水準以上ハ三個ノ水平坑水準以下ハ一斜坑ヲ以テ稼行ス、斜坑ハ本鉗延長三百五間ニ達シ左部ニ

五條右部ニ三條ノ片磐ヲ有シ坑況依然順調ニシテ年產三萬七千二百五十三噸ニ及フ

二六、瑪鍊坑(臺灣炭礦株式會社) 本鉄延長四百二十間ニ達シ、右部ニ四條左部ニ二條ノ片磐ヲ有ス坑口ヨリ二百九十五間ノ個所ヨリ開設セル左又鉄ハ延長四十間ニ及フ左部及鉄部ニハ喰部存在シ右部ニハ數條ノ斷層頻發スルモ尙ホ年產三萬四千五百七十三噸ニ達ス

二七、嵌脚坑(同)

上)

(一) 三坑 六個ノ水平坑ニヨリ水準以上ノ殘存部分及膨大部ノ採掘ヲナシ年產一萬一千五百九噸ニ及フ  
(二) 第一斜坑 本鉄延先ニ於ケル炭層ノ變動ニ對シ坑口ヨリ二百三十間ノ個所ヨリ開設セル左又鉄ハ延長百二十六間ニ及ヒ目下極力掘進中ナリ右又部ハ依然膨大部ヲ稼行シ總片磐數五條ヲ有シ坑況概シテ順調ヲ示シ年產三萬三千四百噸ニ達ス

(三) 第二斜坑(同)

上)

本鉄延先ハ喰部ノ爲メ掘進ヲ中止シ坑口ヨリ五十間ノ個所ヨリ左又鉄ヲ開設シ延長五十間ニ達シ極力左部ノ發展ニ努メタルモ水害ノ爲メ一頓挫ヲ來シ坑況沈滯セリ片磐三條ヲ有シ年產二萬四千九百三十四噸ナリ

(四) 第三斜坑(同)

上) 本鉄延長二百三間ニ達シ左部ニ六條右部ニ四條ノ片磐ヲ有スルモ出水量意外ニ多ク左部ハ斷層頻發シ天井軟弱、右部ニハ喰部發達シ坑況佳良ナラス年產二萬三千三百十九噸ヲ示セリ、當坑肩部採掘ノ目的ヲ以テ一水平坑道ヲ穿チ極力掘進ヲ急キツアリ延長百五十二間ニ及ヒ近々著炭ノ豫定ナリ

二八、石底一坑(臺灣鋼業株式會社) 本鉄延長三百六十間ニ達シ左右各々四條ノ片磐ヲ有スルモ喰部多ク剩ヘ水害ヲ蒙リ坑況順調ヲ缺キタルモ年產三萬二百四十四噸アリ

二九、同 三坑(同)

上) 本鉄延長三百四十間ニシテ左ニ二條右ニ五條ノ片磐ヲ有スルモ炭層狀態整調ナラス喰部多キモ坑況概シテ順調ニシテ年產三萬三千百七十一噸ナリ

三〇、同 五坑(同)

上) 本鉄延長三百十間ニシテ左右各々四條ノ片磐ヲ有シ坑況順調ニシテ年產三萬五千二百三十三噸アリ

三一、同 六坑(同)

上) 水準以上ハ水平坑ニヨリ以下ハ斜坑ニヨリ稼行ス、斜坑本鉄ハ延長二百間ニシテ右部ニ三條ノ片磐ヲ有シ坑況順調ニシテ年產二萬六千五百八十一噸ナリ、尙ホ左部ノ發展策トシテ坑口ヨリ百六十間ノ個所ヨリ左又鉄ヲ開設シ目下掘鑿中ニシテ延長九間ニ及フ

三二、番子坑(同)

上) 水準以上ヲ五個ノ水平坑ニヨリ採掘ス坑況概シテ順調ニシテ年產八千五百五十六噸アリ

三三、嵌脚寮坑(同)

上) 水準以上ヲ八個ノ水平坑ニヨリテ稼行ス坑況順調ニシテ年產一萬一千九百五十八噸ニ達ス

三四、竿藜林坑(同)

上) 露頭附近ニ十個ノ水平坑ヲ開坑シテ稼行ス坑況順調ニシテ年產一萬三千四百六噸ニ及フ

## 二、附帶事業

一、大竿林二坑ニ於ケル「コータス」製造ハ中止セリ

二、從來施行中ノ瑞芳第五號試錐ハ本年二月二十三日錐下一千百三十六尺ニテ本層炭座ニ著シ所期ノ目的ヲ達シ同四月作業完了セリ

三、四脚亭十坑々内第二斜坑ニ於テハ上總式坑内試錐ヲ施行セリ本年六月十日ニ作業ニ著手シ三層ノ炭座ヲ縫ヒテ錐下百六十五尺ニ達シ引續キ掘進中ナリ

### 三、成績

#### (一) 生産高、販賣高及同價額調

坑名	採炭高	販賣高	販賣價額
田寮港一坑及附屬坑	七九、二〇六	七六、七四三	五四三、二二二
同三坑及附屬坑	三四、三九七	三三、四〇一	二三〇、六七〇
同四脚亭一、二、三、千六及附屬坑	一二四、一二七	一一四、五〇九	七八八、三二四
同五、六、八、同分坑、十九坑及附屬坑	七七、六三七	八〇、一六七	五五六、〇五〇
同十二、十三坑及分坑	二八、三三〇	二六、八六五	一七九、八七一
同六、七坑(鐵道部管區)	四〇、八一六	三九、九九六	鐵道部ヘノ納付高トス
同九、十、十五坑及附屬坑	二五八、一七三	二五一、七八九	一、九五五、一八〇
同十四坑	五、四三一	四、七七四	三四、三三一
同十九坑	二三、五六二	三二、八四六	一五七、〇六一
同烘內坑及附屬坑	四九、〇五九	三九、六七四	二四五、三〇八
同大笨林坑	六、六八五	四、二九六	三〇、七七七
同炭脚坑、瑪鍊坑	二二八、八〇四	一二四、六四四	八一八、四七六

### 一、社向地

#### (二) 販賣ノ狀況

石底一、三、五、六坑	一一九、二七〇	一〇二、四九七	六九八、四五一
嶺腳寮坑	一二、二〇三	七、三九一	五一、一五〇
番子坑、笨秦林坑	一七、六七九	一七、八九七	一一四、二三七
イ、海 外	香港、廣東、油頭、廈門、福州、上海、馬尼刺		
ロ、内 地	名古屋、清水、大阪		
ハ、島 内	鐵道部、專賣局、臺灣製糖、鹽水港製糖、大日本製糖、明治製糖、淺野洋灰、臺灣電力會社等		
ニ、焚 料	大阪商船、近海郵船、山下汽船、內國雜船、外國雜船		
三、狀 況			

イ、基隆社 前年度末好況ノ後ヲ受ケテ年初ハ各地積取旺盛、炭價モ昂騰ノ趨勢ヲ示セシカ需要ノ大宗タル廣東市場カ排日影響ニ依ル不振ノ爲メ裾物炭ハ過剩ノ狀態ヲ呈シタルモ冬場需要期ニ入ルト共ニ上等炭品薄ノ爲メ市況強硬裡ニ越年セリ

ロ、臺灣社 販賣先ハ大體基隆社同様ナルモ船舶焚料トシテ頗ル好評アリ大部分ヲ年度約定セル爲メ炭價ノ著シキ變動ヲ見サリシモ年末坑外水害ニ依リ出炭ニ影響ヲ來シ地元貯炭著シク減少セリ

ハ、臺陽社 販賣先ハ基隆社ト略同様ニシテ年初積出好況ヲ呈セシモ同炭需要ノ大宗タル香港、廣東市況不振ノ爲メ年末多大ノ貯炭ヲ擁スルニ至レリ

四、鑄  
坑名

夫

附錄

朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル鐵業

(一) 異動ノ概況、年末現在人員

採用數

解僱數

年末現在人員

四脚亭一坑	一三五人	一六二人	五八〇人
同上一坑	八三	一一八	
三坑	三六〇	三六一	五一六
同五坑	二、〇一六	二〇四	
同六坑	一、六六六	三八	
同七坑	一八二	四五六	
同八坑	四七三	六九一	一六九
同八分坑	四五	一八三	
同九坑	一、三〇九	一、三〇九	
同十坑	七五	二四四	
同十二坑	一六八	一三九	九七
同十三坑	一四一	二二三	
同十四坑	七七五	二二五	
同十五坑	一、三一七	一六五	
同十六坑	一、三一七	五一四	
		三〇二	

坑名	内地人男最高	内地人男最低	本島人男最高	本島人男最低
田寮港一、三坑及附屬坑	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、四〇〇	一、一四〇
四脚亭一坑上一坑、三坑、十六坑及附屬坑	一、六〇〇	一、六〇〇	一、五四〇	一、一四〇
四腳亭五坑同附屬坑八坑同分坑十九坑燒子寮 坑及附屬坑	一、四五〇	一、四五〇	一、九〇〇	一、九〇〇
但シ一、四脚亭三坑中ニハ三分坑、四分坑合併ニ付加算ス 二、八分坑ハ廢止セリ				

附錄

朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル鐵業

九九

九八

附錄 傳鮮、臺灣及樺太ニ於ケル礦業

一〇〇

四脚亭十二坑、十三坑及分坑	一・七〇〇	一・七〇〇	一・七〇〇	一・七〇〇	一・七〇〇	一・七〇〇	一・八七〇
同 九坑、十坑、十五坑及附屬坑	一・八〇〇	一・五三〇	一・四八〇	一・五三〇	一・四八〇	一・五五〇	一・五五〇
塙脚坑、瑪鍊坑	一・八四〇	一・七四〇	一・四〇〇	一・七四〇	一・四〇〇	一・七九〇	一・七九〇
石底一坑、三坑、五坑、六坑、文山坑、 董腳寮坑、番子坑、牛屎林坑、双脚炭坑	一・四三〇	一・四三〇	一・三八〇	一・三八〇	一・三八〇	一・八六〇	一・八六〇
五、其 他							

(一) 衛生ニ關スル施設

嘱託醫ヲ置キ又獵捕、瑞芳、塙脚、瑪鍊、石底ニハ醫務室ヲ其必要ナル箇所ニハ假綱帶所ヲ設置シテ礦山變災罹患者ノ手當ニ備ヘ更ニ重傷患者ハ基隆久恒醫院ニ送リ入院治療ヲ受ケシム、尙ホ年ニ數回ノ「チブス」「コレラ」等ノ豫防注射ヲ實施シ、活動寫真ヲ利用シテ衛生ノ宣傳ヲナセリ

(二) 鐵夫ノ住宅ニ關スル施設

鐵夫ニハ社有ノ納屋ヲ無料ニテ使用セシメ水道、風呂場ノ設備モ各坑所ニ於テ不自由ナキ程度ニ施設シ無料ニテ利

(三) 鐵夫ノ福利增進ニ關スル施設及ヒ娛樂慰安ニ關スル施設

事業傷ニアラスシテ負傷又ハ死亡シタルモノニモ情狀特ニ同情ニ值スル場合ニ於テハ相當ノ弔慰金又ハ見舞金ヲ支給シ又四脚亭一坑同五、六坑、同十二坑同十六坑同十九坑、第三區、塙脚、舊桐坑、石底五坑ニハ各調進所ヲ設置シテ日用品ヲ安價ニ鐵夫ニ供給ス、而シテ其ノ利益ハ鐵夫福利增進資金トシテ別途整理シ或ハ活動寫真機ヲ備ヘテ彼等ノ娛樂慰安ヲ兼ネテ災害豫防ニ關スル寫真ヲ觀覽セシメ礦業變災ノ防止方ヲ宣傳セリ

出礦坑々場 位 置 新竹州苗栗郡出礦坑地内  
業人 日本石油株式會社及後野總一郎

一、設備 本坑場ハ逐日發展シツツアリテ當年中設備ヲ増設セルモノ左ノ如シ

イ、坑井裝置

高二六米鐵製橋 六臺 高三二米 鐵製橋口式裝置共 一臺  
外焚多管式汽罐 6' × 15' 六臺 ウルフ式蒸汽機關 一五〇

モーガル式蒸汽機關 二三〇 六臺 ガンボーラ筒 10' × 6' × 12'

ロ、給水裝置

鐵槽 五、〇〇〇石入 一基  
唧筒 アイデアル式 6<sup>1</sup>/<sub>2</sub>' × 12'  
唧筒 ウオーリントン式 10' × 4' × 12'

唧筒 三筒バソ一式 6' × 12'  
唧筒 三筒バソ一式 5' × 6'

ハ、鐵管線 錦水ノ噴出瓦斯ヲ引用汽罐燃料ニ供スル爲メ<sup>4</sup>瓦斯線 一五、〇〇〇米(苗栗出  
ニ、運輸 矿場内ニ左記軌道索道ヲ新設シ困難ナル運搬作業ノ能率増進ヲ計ル

軌道 軌條式 軌道 19<sup>1</sup>/<sub>2</sub> (輕便手押臺車) 總延長 四、三四〇米  
索道 架空式 主線一時ワイヤー二條張 同 五四〇米  
索道 架空式 軌道 19<sup>1</sup>/<sub>2</sub> 同 四〇〇米

附錄 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル鐵業

一〇二

ホ、電氣裝置 從來施設ノモノ全部撤廢シ左ノ通り新設ス

三相交流發電機 四四 kw 電壓 四四○v 點燈用 一基

直流複卷式同 同 七 kw 同 五〇v 電弧熔接用 一基

ヘ、其 他

鐵槽 一〇、〇〇〇石入 原油用 一基 挥發吸收塔 4'-10'x33' 挥發油採取用 一基

旋盤 二三呎 鐵治用 一臺 電動鑽孔機 鐵治用 一臺

二、作業 挖鑿能率増進ノ目的ヲ以テロ式鑿井法ヲ施行セシニ其ノ成績良好ニ付從來ノ綱式ヲロ式ニ改メ主力ヲ同式ニ注ク、本年中成功井四坑ニシテ現在掘鑿中ノモノ六坑、何レモ順進中ナリ

三、成績 產油高ハ左ノ如シ

原 瓦斯 油 二二、八二七キロ立

天然揮發油 斯 一九一八、四一八立方米

四、鑄夫 異動狀況其ノ他

儲 入 六十八名 解 離 五十七名

轉 入 百名(内、内地ヨリ七十九名) 轉 出 六名

年末現在人員 三二三名 最高賃金 五・七二〇

最低賃金 ○・四五〇

五、其 他

住宅、人員增加ニ伴ヒ内地人鑄夫住宅三棟(十二戸)合宿所一棟、臺灣人鑄夫住宅二棟(十戸)合宿所一棟ヲ新築シ増員ヲ收容シ尙ホ數棟増設ノ豫定ナリ

其他特記事項無シ

錦水石油坑場 位置  
新竹州竹南郡造橋庄地内  
營業人 日本石油株式會社

一、設備

イ、坑井裝置 從來ノ成績ニ鑑ミ前途有望ナルヲ見越シ當年中ニ四坑開坑セリ設備左ノ如シ

高二六米 鐵製櫓 綱式裝置共 二臺 高三二米 鐵製櫓 ロ式裝置共 二臺

外焚多管式汽罐 6'x15' 四臺 改良モーヤル式蒸汽機關 一五 h.p. 二臺

改良モーヤル式蒸汽機關 二三 h.p. 四臺 高壓ドーコ式唧筒 12'x3'x12' 一臺

ガードナード唧筒 10'x6'x12' 二臺

ロ、揮發油採收裝置 本春增設工事完成ス

ガソリン吸收塔 高三〇呎 直徑三呎 一二基 其他附屬設備一式

ハ、給水裝置增設

3' 鐵管線 二、三二九米 2' 鐵管線 二、三二九米

岬 筒 三個バロー式 4'x6' 一基 瓦斯發動機 シュベリオル式三〇 h.p. 一基

二、運輸 從來運搬ハ總テ山地擔送ニシテ甚シク不便ナルニ鑑ミ臺灣軌道會社ニ補助金ヲ交附シ苗栗、錦水間ニ輕便

軌道延長七哩四分ノ難工事ヲ完成セシメ八月開通シ作業上多大ノ便益ヲ得タリ

附錄 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル鑄業

一〇四

二、作業 第五、第六號井ノ成績ニ鑑ミ該井深度以下探掘ノ目的ヲ以テ當年中ヨ式二坑、綱式二坑開掘何レモ順進中ナリ

三、成績 產高ハ 天然揮發油 四七三キロ立 瓦斯 二、四六五、六一七立方米

四、鑄夫 異動狀況其他 六〇名

儲入 轉入 二三名(内、内地ヨリ一五名) 轉出 一八名(内、内地ヘ二名)

年末人員 一二〇名 最高賃金 五〇五〇 最低 ○・四〇〇

五、其 他 住宅、人員增加ニヨリ内地人鑄夫住宅一棟(四戸)合宿所一棟、本島人住宅一棟(五戸)ヲ増設ス、其他特殊事項無シ

### 三、樺 太

(樺太廳調查)

#### 出 願

昭和二年中ニ於ケル出願ハ鑄業三百三十四件砂鑄業十九件(内砂金十八件砂白金一件)ニシテ之ヲ前年ニ比スルトキハ鑄業ニ於テ百三十九件砂鑄業ニ於テ十件ノ増加ヲ見タリ左ニ鑄種別出願件數及出願處理ニ付前年トノ對照ヲ示ス

鑄種別鑄業出願件數表

年 次	鑄	業	砂 鑄			
			出	願	許	可
昭和元年	石炭					
昭和元年	石油	金				
昭和元年	銀	銅	金銀			
昭和元年	銅鐵	金銀	金銀			
昭和元年	鐵	亞銅	金銀			
昭和元年	銅	鉛	金銀			
昭和元年	銅	金	金銀			
昭和元年	鐵	鐵	鐵			
昭和元年	水銀	金銀	水銀			
昭和元年	銅	銅	銅			
昭和元年	滿鐵	滿鐵	滿鐵			
昭和元年	金銀	金銀	金銀			
昭和元年	鉛銅	鉛銅	鉛銅			
昭和元年	水銀	水銀	水銀			
昭和元年	亞銀	亞銀	亞銀			
昭和元年	計					
昭和二年	石炭					
昭和二年	石油	金				
昭和二年	銀	銅	金銀			
昭和二年	銅鐵	金銀	金銀			
昭和二年	鐵	亞銅	金銀			
昭和二年	銅	鉛	金銀			
昭和二年	金	金	金銀			
昭和二年	鐵	鐵	鐵			
昭和二年	水銀	金銀	水銀			
昭和二年	銅	銅	銅			
昭和二年	滿鐵	滿鐵	滿鐵			
昭和二年	金銀	金銀	金銀			
昭和二年	鉛銅	鉛銅	鉛銅			
昭和二年	水銀	水銀	水銀			
昭和二年	亞銀	亞銀	亞銀			
昭和二年	計					
昭和二年	石炭					
昭和二年	石油	金				
昭和二年	銀	銅	金銀			
昭和二年	銅鐵	金銀	金銀			
昭和二年	鐵	亞銅	金銀			
昭和二年	銅	鉛	金銀			
昭和二年	金	金	金銀			
昭和二年	鐵	鐵	鐵			
昭和二年	水銀	金銀	水銀			
昭和二年	銅	銅	銅			
昭和二年	滿鐵	滿鐵	滿鐵			
昭和二年	金銀	金銀	金銀			
昭和二年	鉛銅	鉛銅	鉛銅			
昭和二年	水銀	水銀	水銀			
昭和二年	亞銀	亞銀	亞銀			
昭和二年	計					

但シ前年ヨリ繰越シタル未處分鑄業八百十二件砂鑄業十件アリタリ

### 鑄 区

附錄 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル鑄業

一〇五

昭和二年末ニ於ケル礦區ハ礦業ニ在リテハ二百二十礦區其坪數一億六千四百七十三萬四千三百六十八坪ニシテ前年ニ比スレハ二十七礦區二千百七十五萬一千七百八十七坪ヲ増シ砂礦業ニ在リテハ十四礦區五十六萬七千坪及河床延長十七里六丁三十間ニシテ前年末ニ比シ一礦區河床一里六丁三十間ヲ增加シタリ今其ノ礦種別前年對照ヲ表示スレハ

## 試掘礦區

年次	區別	石炭	亞炭	石油	金銀	金銀銅	亞銀鉛	硫化鐵	鉛亞銀	水銀	金銀銅	計
昭和元年	面積區	八、一五六、一五五	二六三、三七五、六七三、四三一、四一〇、〇〇〇	三五〇、七四〇	八三三、五〇〇	三一五、一四八	九一九、七四〇	三一五、一四八	九一九、七四〇	二二、〇六五、七一八	一五三	
昭和二年	同	二〇、一六、一六四	九〇〇、〇〇〇	八、三三四、九四五	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一三、三四五、九七六	一七八	

## 採掘礦區對照表

年次	區別	石炭	亞炭	石油	金銀	金銀銅	亞銀鉛	硫化鐵	鉛亞銀	水銀	金銀銅	計
昭和元年	面積區	二六、三五七、五六一	二七、八二九、〇九〇	四、〇〇四、三六五	五五四、九六六	五五四、九六六	五〇、九一六、八六三	五二、三八八、三九三	五〇、九一六、八六三	二二、〇六五、七一八	一五三	
昭和二年	同	二七、八二九、〇九〇	四、〇〇四、三六五	五五四、九六六	五〇、九一六、八六三	五〇、九一六、八六三	五〇、九一六、八六三	五〇、九一六、八六三	五〇、九一六、八六三	二二、〇六五、七一八	一五三	

## 砂礦區對照表

年次	區別	砂	金	石	油	金	銀	銅	計
昭和元年	面積區	四〇五、〇〇〇	一	七三、〇〇〇	一	九、〇〇〇	一	一	
昭和二年	同	四〇五、〇〇〇	一	七三、〇〇〇	一	九、〇〇〇	一	一	

## 鑿產額對照表（石炭）

年次	川上	泊居	東白浦	登帆	大榮	野田	知取	大平	樺保	計
昭和元年	二〇六、三九六	一、五五二	六、〇九九	五二、六六七	四七、四五六	二、七七五	三八、一三三	四〇、五八〇	三五〇	三七五、八一九
附錄 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル礦業										

管内ニ於ケル稼行礦區ハ孰レモ皆石炭礦ノミニシテ昭和二年中ニ於テ前年ヨリ引續キ稼行シタルモノノ七礦山當年間新ニ稼行ニ著手シタルモノ一礦山（稼產額未タ有シ）計八礦山ニシテ其ノ稼產額三十五萬七千四十六噸ニ及ヒ之ヲ前年度ノ二十七萬五千八百十九噸ニ比スレハ八萬一千五百二十七噸ノ增加ヲ示シタリ之レ近時工業界ノ進展ニ伴ヒ之レカ燃料炭ノ消費額ニ増加シタルト漸次開通セラレツタル地方鐵道ノ消費多キヲ加ヘツタル一面一般家庭用燃料トシテノ石炭ノ需用逐年增加ノ趨勢ニアルトニ因リ各炭礦ハ何レモ競フテ企業ノ擴張出炭ノ增加ヲ期シ就中川上、知取、大平ノ諸炭礦ニ於ケル最近ノ出炭狀態ハ其ノ擴張工事ノ竣工ニ從ヒ舊態ヲ全ク脱出ノ域ニアリ本年度ニ於テハ一躍年產五十萬噸ニ達スヘキ見込ナリ今各山別ニ前年ト對照ヲ表示スレハ

稼行鑛區現在表		昭和二年 一三九、五六九	一三九四	六七九三	五一八五八	八四三四五	七二二	一〇六六	三五七、〇四六	一〇八
名稱	所在地									
川上泊居白浦炭礦	豐原郡川上村大字三井 泊居郡泊居町大字東白浦 菱濱郡白鶴村大字東白浦 泊居郡名寄村大字東白浦 元好郡知取町大字知取 元好郡元泊村大字元泊 名好郡惠須取町大字惠須取	三、六五九、五二〇	七七七、九〇〇	四九、五三三	一、八五、九五九	一、八五、九五九	一、八五、九五九	一、八五、九五九	一、八五、九五九	一、八五、九五九
石炭	石炭	大正二、二、六	大正二、二、六	大正二、二、六	大正二、二、六	大正二、二、六	大正二、二、六	大正二、二、六	大正二、二、六	大正二、二、六
面積	面積	著手年月日	著手年月日	著手年月日	著手年月日	著手年月日	著手年月日	著手年月日	著手年月日	著手年月日
鑛業權者	鑛業權者	社	社	社	社	社	社	社	社	社

昭和二年本邦鑛業ノ趨勢終

昭和三年十月二十八日印刷  
昭和三年十月三十一日發行

商工省鑛山局編纂

定價 金參圓五拾錢

東京市京橋區木挽町九丁目	東京市京橋區瀧山町七番地
商工省地質調查所内	日本鑛山協會
發行人 法人團	竹永喜一
印刷所	小川邦孝
東京市京橋區瀧山町七番地	東京製木合資會社

II 3A-93

商丘縣志稿





終